



日本統計学会 会報 2025.1.31 No. 202

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任——川崎 能典(理事長) / 伴 正隆(庶務理事)
小西 葉子(広報理事) / 浦沢 聡士(広報委員)
塚本 高浩(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|--|
| 1. 巻頭随筆：こちら統計エキスパート人材育成
コンソーシアム研修部……………中西寛子… 1 | ……………川崎能典…10 |
| 2. 2024年度統計関連学会連合大会の報告
……………藤木美江・橋口博樹・地道正行… 3 | 7. 2025・2026年度代議員選挙結果
……………川久保友超・長谷川翔平…13 |
| 3. 2025年度統計関連学会連合大会について
……………川崎能典・佐藤忠彦… 8 | 8. 2024年1～6月統計検定CBT方式試験の成績優
秀者……………照井伸彦・川崎能典…14 |
| 4. 第19回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)
……………川崎能典・佐藤忠彦・牧本直樹ほか… 8 | 9. 理事会・委員会報告(2024年10月12日開催)…16 |
| 5. 科学研究費：国際情報発信強化(B)の採択に
ついて……………植木優夫… 9 | 10. 博士論文・修士論文の紹介……………18 |
| 6. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集 | 11. 新刊紹介……………18 |
| | 12. 学会事務局から……………19 |
| | 13. 投稿のお願い……………19 |

1. こちら統計エキスパート人材育成コンソーシアム研修部

中西 寛子 (統計数理研究所)

この歳になると、健康なうちにできることはしておこうと思うようになる。本巻頭随筆もそのできることの一つとしてお引き受けした。たぶん、「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」に関する雑感を求められているのであろうと考える。ここは随筆ということで、中西個人の視点から本件について勝手気ままに書くことをご容赦願いたい。

2021年1月、統計数理研究所(以下、統数研)の椿所長から連絡をいただいた。これから統数研が取組む文部科学省の新プロジェクト(文部科学省公募事業)への参画に関することであった。本当に採択されるかも不明とのことだった。自信はおありのようではあったが、あまり詳しい内容を聞くことなく、深く考えることもなくお引き受けした。幸いにも本プロジェクトは2021年6月23日

に「統計エキスパート人材育成コンソーシアム」として文部科学省に選定された。

コンソーシアムの詳細情報は統数研のホームページを見ていただくとして、ここでは統数研にある研修部の研修内容を簡単に紹介するとともに、シニア教員と呼ばれる統計学を長年教えてきた教員(岩崎学, 折笠秀樹, 国友直人, 清水邦夫, 神保雅一, 中西寛子, 水田正弘, 三輪哲久(五十音順), 佐藤俊哉(2025年度から参加))が、いかに若い研究者から刺激を受けているかという話をさせていただきたい。

本コンソーシアムのミッションは、専門分野が統計学ではない若手研究者を統計エキスパートとして育て上げることである。具体的な目標は、1) 大学修士学生相当に対して、「基本的な統計学の講義」、「発展的な統計学の講義」、2種の「専門

分野と統計が融合した講義」が15コマずつできること、2) 専門分野において、統計学に基づく研究指導ができること、3) 統計学の知識を十分に活かし自身の研究を発展させることである。研修は2年間(半年を1クールとした4クールからなる)である。当初は5年間の事業として計画していたが、6年間に延ばし、計50名程度の統計エキスパートを輩出する予定である。

研修に参加する若手研究者は専門分野の博士の学位を持ち、すでに自身の分野で活躍している。そのため、今更、統計学を学ぶために2年間を費やすことはない。この2年間、研究時間の幾ばくかが犠牲になることは分かっているであろうに、何かに駆り立てられ、研修部、つまり我々シニア教員の所に所属機関より推薦されてやってくる。彼らは我々から研修生と呼ばれ、日々、統計学を理解するための努力をしている。

ここでお断りをしておくが、推薦された応募者全員が研修生になれるわけではない。コンソーシアム選考委員会の議を経て選ばれた者たちである。研修生の研究歴や業績を初めて見た時、多様な専門分野もそうであるが、統計学の知識の差が大きく、本当に指導できるのかと不安になった。明確な目的をもって学びに来た者の強さから、結果としてその不安は不要であった。

研修は3つの大まかな内容からなる。①2年間で8回の模擬講義をする。自身の講義を披露するだけでなく、他の研修生の模擬講義にも参加することが義務付けられている。つまり、2年間で約100回の模擬講義を聴講することになる。②シニア教員1名に対し研修生2名からなるグループ研修において、各自の弱点を補い、さらに新しい知見を得る。これは外から見ると贅沢なことと考えてもよいのではないだろうか。③シニア教員の専門性に応じた統計学の講義の聴講とレポート提出が強いられる。シニア教員だけでは補えない統計学の分野はゲストによる講義が計画される。

このカリキュラムを作った者からすると、なんと大変な研修を義務付けてしまったのであろうかと、反省はしないが多少の同情はする。

この研修では①の模擬講義を重要視している。大したことではないのでは?と思われる方もおいでだろうが、大学の教員は他の教員の前で講義を披露することはないので、なかなか辛い! たぶん、研修生は模擬講義の準備に本務校で行っている講義より時間を要しているのではないかと、一方で、他分野の講義に参加することは知識の幅も広がる。さらに、模擬講義の繰り返しは明らかに研修生の講義の質を上げる。これらのことは研修生も理解しており、よりよい講義を作り上げていくための競い合いが見られ頼もしい。

さて、我々シニア教員という、30~40年は統計学の理論的な話を中心とした講義を繰り返している。それこそ寝ながらも講義ができるほど繰り返してきたのであるが、多種多様な分野で統計学がどのように活用できるかを理解させる柔軟な講義のアイデアは(少なくとも私は)持ちえない。また、機械学習やAIの知識なども、若い研修者ならではの考えで授業に含めていく技術には尊敬する。ちょっとしたイラストを効果的に入れた講義資料を見るにつけ、時間をかけた資料作りには脱帽である。

これまで述べてきたように、我々はさまざまな場面で研修生から知識を新たにできる機会を得る。研修生は専門分野の興味あるデータを持っていることが多く、統計学が活かされる研究分野が多くなることもしばしば教えられる。こうしてシニア教員は研修生を通してエネルギーを得、若返りができているのではないかと思う。

さて、ここまでは研修内容の良いことばかりを書き綴ってきたが、2年間で統計学をすべて理解するというはあり得ない。シニア教員でも統計学のすべてを理解しているわけではない。間違っただけではないのはこの研修の修了が意味することは、統計学の講義の手法、研究に応用するための基本を学んだということである。自身の専門分野の学問と統計学の日々の変化には敏感であってほしく、今後の努力を続けてもらいたい。大変な2年間の中で多くのことを学び、知り合った他分野の仲間は今後の宝になるであろうことは間違

いない。後の人生において、良い機会を得たと

思ってもらえることを祈って筆をおく。

2. 2024年度統計関連学会連合大会の報告

運営委員長 藤木 美江 (愛知淑徳大学)
実行委員長 橋口 博樹 (東京理科大学)
プログラム委員長 地道 正行 (関西学院大学)

1. 大会概要報告

藤木 美江 (愛知淑徳大学)

2024年度統計関連学会連合大会は、2024年9月1日(日)～5日(木)に統計関連学会連合に所属する6学会(応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会)の主催により開催されました。1日は市民講演会とチュートリアルセッションを台風接近の影響を受け、オンラインのみでの実施をいたしました。2日～5日は本大会を東京理科大学神楽坂キャンパスにて、オンラインと現地と併用するハイブリッド開催で行いました。

昨年に引き続き大会開催期間を5日間で行いました。大会前からの台風進路が定まらず、その影響で大雨による新幹線の運行停止などがありましたが、実行委員会・プログラム委員会・運営委員会メンバーと何度か話し合いを重ねた結果、何とか無事にハイブリッド開催が実現することができました。最後まで無事に終わられたこと、大変嬉しく思います。

市民講演会はオンラインのみの開催となりましたが、参加登録者は271名でした(市民講演会のみ参加10名含む)。また、参加登録者として、チュートリアルが267名、本大会参加登録者数は1128名でした。講演件数は355件(キャンセルを除く)にのぼり、今年度の大会は盛会のうちに終了しました。講演件数の内訳は、プレナリーセッション1件、企画セッション141件、一般セッション177件、コンペティションセッション36件でした。

今回の大会が無事に終了し、また大会の円滑な運営を行うことができましたのも、ひとえに関係

者の皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝しております。講演者、座長、企画セッションオーガナイザー、参加者の皆様にお礼を申し上げます。今回の大会では、昨年に引き続き、講演報告集の電子版を標準とし、プログラム冊子を現地受付にて配布いたしました。プログラム冊子の作成・配布は新たな試みであり、その有用性や課題も明らかになりました。また、例年の企画セッションにおいて、ソフトウェアデモセッションを実施していますが、今年は昼休みの時間帯にランチセミナーとして実施しました。しかし、台風の影響で会場の参加者数を予測するのが難しく、ランチの提供は行いませんでした。それにもかかわらず、多くの方にご来場いただき、感謝申し上げます。今回初めて実施したことで、改善すべき点も見つかりました。これらは今後の参考にしたいと思います。さらに、参加人数も登録者数で千人を超え、予想を大きく上回りました。大会関係者として、改めて感謝いたします。例年と変わらぬご協賛をいただいた多くの企業・団体様にも重ねてお礼申し上げます。

23回目を迎えた連合大会は、これまでの経験を活かし、大きな進化を遂げています。対面・オンラインのハイブリッド開催のノウハウを蓄積し、参加者の利便性向上と運営の効率化を目指して、外部委託による事務局業務の一部アウトソーシングを実施しました。特に、ウェブサービスやQRコードを活用した受付システムの導入により、情報管理の一元化や受付対応の円滑化が実現しました。このような試みにおいて、まだ改善の余地は残されているものの、6学会の会員の皆様には温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

ます。

最後に、宿久組織委員長、橋口実行委員長、地道プログラム委員長、内藤プログラム副委員長、富田運営副委員長をはじめ、ボランティアで活動してくださいました、実行委員、プログラム委員および運営委員の皆様、東京理科大学を中心とした職員およびアルバイト学生の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

2. 市民講演会・チュートリアルセッション報告

橋口 博樹 (東京理科大学)

地道 正行 (関西学院大学)

今年度の市民講演会は、2024年9月1日(日)(13時から14時30分)に東京理科大学教授で東京理科大学総合研究院マルチハザード都市防災研究拠点の拠点長でもある二瓶泰雄先生による「マルチハザードの危機～令和6年能登半島地震から考える～」というタイトルで、ご講演いただきました。本講演では、本年元旦に発生した令和6年能登半島地震や近年の災害の例を通して「マルチハザード」の危機についての紹介がありました。令和6年能登半島地震はM7.6の地震であり、津波や地すべり、大規模火災の発生、という複数のハザードが次々と発生する「マルチハザード」が生じ、甚大な被害が報告されているものです。さらに今後のマルチハザード発生に対してどう備えるかについてもお話があり、大変わかりやすく、質疑応答も活発に行われ、大変有益なものでした。

続くチュートリアルセッションでは、近年話題となっているChatGPTに代表される生成AIを活用する上で留意すべき点である「倫理」と「法律」に着目し、この分野でご活躍されている中川裕志先生(理化学研究所革新知能統合研究センター)と福岡真之介先生(西村あさひ法律事務所)に、倫理・法律に関する専門的な観点からご講演いただきました。中川裕志先生からは、「生成AIを垣間見る」というタイトルで御講演いただきました。生成AIについて、その仕組みにおける問題点といくつかの応用について解説されました。また、個人に代理的役割を担うAIエージェントへ

の応用、および、本人の死後に残されたAIエージェントについて、その危険性についての指摘もありました。次に、福岡真之介先生から、「生成AI利用における著作権の注意点」というタイトルでご講演いただきました。生成AIの開発・利用における主要な法的リスクとして著作権侵害があることと、その対策法について詳細に解説していただきました。今回の講演で、日頃、AIを利用する上で、漠然とした不安を感じる問題点について明快に説明いただけたことが有益であったと思われ

ます。当日は、台風の影響があり、市民講演会とチュートリアルセッションはともにオンラインでの開催となりましたが、270名を超える参加登録者によって、多くの質問があり、盛況のうちに終了となりました。

最後に、市民講演会とチュートリアルセッションの開催に際して、御講演を快くお引き受けくださった二瓶泰雄先生、中川裕志先生、福岡真之介先生に心から感謝申し上げます。

3. プレナリーセッション、企画セッション報告

黒沢 健 (東京理科大学)

地道 正行 (関西学院大学)

連合大会初日の9月2日(月)午前に、プレナリーセッションとして赤池メモリアルセッションが開催されました。Arnaud Doucet 教授(University of Oxford and Google DeepMind)から Schrödinger Bridges - Computation and Applications というタイトルでご講演いただきました。

その他に本大会では、31件の企画セッションが開催されました。セッション名とオーガナイザー(敬称略)を以下に示します。

(整理番号)、テーマ名(セッション名)、オーガナイザー(敬称略、所属は申込情報を基に作成)

(02)日本計量生物学会シンポジウム「感染症対策とデータ科学:COVID-19から次のパンデミックに向けて」(共催:日本疫学会)、高橋邦彦(東京医科歯科大学)

- (03) Advanced Bayesian Computation, 鎌谷研吾 (統計数理研究所)
- (04) 統計エキスパート人材育成－多様な分野での統計活用と展開, 中西寛子 (統計数理研究所)
- (05) 経済成長と景気変動の分析：新たなアプローチと実証研究, 姜興起 (岐阜聖徳学園大学)
- (06) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療健康データ科学のフロンティア」, 松井茂之 (名古屋大学・統計数理研究所), 伊藤陽一 (北海道大学病院), 田栗正隆 (東京医科大学), 江村剛志 (統計数理研究所)
- (07) Recent Advances in Bayesian Analysis, 入江薫 (東京大学)
- (08) 公益財団法人統計情報研究開発センター 統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰受賞記念講演, 會田雅人 (公益財団法人統計情報研究開発センター)
- (09) データサイエンス系学部の現況, 渡部敏明 (一橋大学)
- (10) 経済指標の新展開－景気の「今」をどのように捉えるか－, 肥後雅博 (東京大学)
- (11) 日本計算機統計学会 企画セッション『革新的な臨床試験デザインへの統計科学の貢献と日本での展開』, 松岡伸篤 (ファイザー R&D 合同会社), 弘新太郎 (ファイザー R&D 合同会社)
- (12) 確率過程の統計, 鎌谷研吾 (統計数理研究所)
- (13) 大規模データに対するプライバシー保護技術の新たな展開, 佐井至道 (岡山商科大学), 星野伸明 (金沢大学), 伊藤伸介 (中央大学)
- (14) アジアの公的ミクロ統計の活用, 馬場康維 (統計数理研究所), 岡本基 (統計数理研究所)
- (15) ベイズモデリングの方法論, 菅澤翔之助 (慶應義塾大学)
- (16) 応用統計学会 学会賞受賞者講演, 星野崇宏 (慶應義塾大学), 松井秀俊 (滋賀大学)
- (17) 次世代エネルギー核融合研究における統計的アプローチ, 三分一史和 (統計数理研究所), 横山雅之 (核融合科学研究所), 奥野彰文 (統計数理研究所)
- (18) 計量ファイナンスの実践と課題, 大屋幸輔 (大阪大学)
- (19) 生成AIがもたらす新しい統計・データサイエンス教育の展開と課題, 竹内光悦 (日本統計学会統計教育委員会委員長・同分科会主査／実践女子大学), 藤井良宜 (前日本統計学会統計教育分科会主査／宮崎大学), 渡辺美智子 (統計関連学会連合統計教育推進委員会委員長／立正大学)
- (20) International Journal : JJSD Session by JSPS KAKENHI Grant Number 24HP2004, 江村剛志 (統計数理研究所), 荒木由布子 (東北大学), 植木優夫 (長崎大学)
- (21) 公的統計の二次利用における最新動向, 南和宏 (統計数理研究所), 伊藤伸介 (中央大学), 高部勲 (立正大学)
- (22) 意識の国際比較の調査と分析, 松本渉 (関西大学)
- (23) 産産学連携でのデータサイエンスの取り組み, 竹村彰通 (滋賀大学), 笛田薫 (滋賀大学)
- (24) 応用統計学会企画セッション「欠測データ解析の理論と応用」, 西山貴弘 (専修大学), 山本紘司 (横浜市立大学), 首藤信通 (神戸薬科大学／神戸大学)
- (25) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演, 川口淳 (佐賀大学), 口羽文 (帝京大学), 長谷川貴大 (塩野義製薬株式会社), 横田勲 (北海道大学)
- (26) 赤池メモリアルレクチャー, 鎌谷研吾 (統計数理研究所), 荒木由布子 (東北大学)
- (27) デイオバン事件再訪で見た「10年」～臨床試験における統計家の役割の再考, 吉村健一 (名古屋市立大学), 大津洋 (順天堂大学)
- (28) 東京理科大学におけるデータサイエンス教育・研究の取り組みについて, 瀬尾隆 (東京理科大学)
- (29) 日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演(1), 川崎能典 (統計数理研究所)

- (30) 日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演(2), 川崎能典(統計数理研究所)
- (31) 地震ビッグデータ解析の最前線, 長尾大道(東京大学), 加藤愛太郎(東京大学), 矢野恵佑(統計数理研究所)
- (32) 多様性が拓くデータサイエンス・AIの未来, 南美穂子(日本統計学会 多様性推進特別委員会/慶應義塾大学), 渡辺美智子(日本統計学会女性統計家・データサイエンティスト育成分科会/立正大学)

なお, 都合により企画セッション(01) ソフトウェア・デモンストレーションセッションは開催していません。

4. コンペティションセッション報告

内藤 貫太(東北大学)

今年度は, 9月2日(月)から9月4日(水)の3日間に6つのコンペティションセッションが設けられました。全部で40件の発表申込がありましたが, 発表申し込み締め切り日までに, 関連学会への入会あるいは入会の手続きが確認できなかった4件については辞退もしくは一般セッションに移っていただき, 最終的には36件の発表がありました。

審査では, 今年度もこれまでと同様に, 研究内容とプレゼンテーションの双方を評価対象としました。限られた時間で, 専門外の人に対して, いかに自分の研究内容を報告するかということも重要な評価項目です。原則として7名の審査員が審査を担当し, 各発表に対してA(5点)~E(1点)の評価を与えました。全審査員のスコアの最大値と最小値を除いた刈り込み平均により順位をつけ, 最優秀報告賞と優秀報告賞を決定しました。

選考の結果, 最優秀報告賞2件, 優秀報告賞5件が選ばれ, 9月5日(木)の12:10から対面形式により表彰式を執り行いました。

最後に, 審査員および座長をお引き受けいただいた方々に, この場を借りて御礼申し上げますと

もに, ご発表いただいた全員の方々の研究が今後益々進展することを願っております。

今年度の表彰者は下記の通りです。

最優秀報告賞(2件)

助田 一晟(東京大学)

「コピュラの relative local dependence」

酒井 真菜(東京大学)

「2次不偏なベイズ推定量の導出とその性質」

優秀報告賞(5件)

篠原 紗也華(東京医科大)

「推定値の単調減少性および有界性を保証する二重頑健な生存曲線推定法」

屋良 淳朝(大阪大学)

「深層学習を用いた Poisson 点過程の強度関数の最尤推定」

宋 裕進(東京大学)

「低次元特徴を持つ非線形関数に対する Transformer のインコンテキスト学習能力の解析」

海野 哲也(筑波大学)

「正則化パラメータを使わない高次元特徴量のスパース推定」

川田 遼太郎(東京大学)

「群モデル上の右不変事前分布を漸近優越する優調和事前分布」

5. コンペティションセッション受賞者の言葉 最優秀報告賞

助田 一晟(東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて最優秀報告賞を頂き, 誠に光栄に存じます。大会の企画や運営, および審査に携わられた関係者皆様に深く感謝申し上げます。また, この場をお借りして日頃よりご指導いただいている清智也教授と松田孟留准教授に御礼申し上げます。本発表では40年前から研究されてきた局所従属性指標に対し, 従属性指標として望ましい不変性を付与する方法を提案し, それを用いてコピュラ関数の特徴付けを提示しました。結果として代表的な2種類のコピュラの新たな関係性を見出すことができま

した。今回の受賞を励みに、今後とも新しい諸性質の発見につとめてまいります。今後ともご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

酒井 真菜（東京大学）

この度は最優秀報告賞という栄誉ある賞を頂戴し大変光栄に存じます。本大会の企画・運営ならびに審査にご尽力くださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。そして、指導教員の久保川達也先生、共同研究者の松田孟留先生にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本報告では、2次不偏なベイズ推定量を生成するような事前分布の存在条件とその具体的な導出法を一般のモデルについて示した上で、小地域推定への応用を検討しました。今回の受賞を励みに、これからもより一層研究に邁進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく宜しくお願い申し上げます。

優秀報告賞

篠原 紗也華（東京医科大）

この度はコンペティションセッションにて優秀報告賞を頂戴し、大変光栄に思います。本大会の企画・運営及び審査に携われた先生方に心から感謝申し上げます。また、日頃から熱心な指導をしてくださる田栗正隆先生をはじめ、研究にアドバイスをくださった先生方、ならびに社会人学生としての活動を支援していただいている同僚や家族にも深く感謝致します。本発表では、交絡が存在する観察研究データにおいて、交絡を調整した二重頑健な生存曲線推定法を新たに提案しました。既存手法では保証されていなかった生存曲線の単調減少性および区間 $[0, 1]$ の有界性を保証することで、使いやすく分かりやすい手法となることを目指して研究を進めております。今回の受賞を励みに、より一層研究に精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

屋良 淳朝（大阪大学）

この度、2024年度統計関連連合大会のコンペ

ティションセッションにおいて、優秀報告賞を頂戴し、誠に光栄に思います。本大会の企画・運営及びコンペティションセッションの審査に携わってくださった皆様に心から感謝申し上げます。また、研究内容・発表内容の改善に多大なるご協力を頂いた寺田吉壺先生、普段の研究活動を支えてくださった研究室の方々に深く感謝いたします。本報告では、Poisson 過程の強度関数の最尤推定量の理論的性質を示し、深層学習を用いた強度関数の最尤推定量がミニマックス最適な収束レートを達成することを示しました。今回の受賞を励みに、これからもより一層研究活動に取り組んでまいります。

宋 裕進（東京大学）

この度は優秀報告賞をいただき、大変光栄に存じます。学会運営やコンペティションセッションの審査にご尽力くださった皆様、また本研究にてお世話になった鈴木大慈先生、大古一聡さん、Denny Wu さんに深く感謝いたします。本研究は近年注目を浴びる大規模言語モデルにも用いられる Transformer アーキテクチャが事前学習で有用な情報を得るしくみの一つを、統計理論を用いて解析したものです。機械学習と統計理論の交差点に位置するような研究であり、こうした研究を統計学に携わる皆様にお伝えできたことを大変嬉しく思います。統計理論としても機械学習の研究としても、本研究は興味深い今後の課題がいくつか残されているため、更なる発展を目指し引き続きの研究に臨みたく存じます。

海野 哲也（筑波大学）

この度はコンペティション講演において優秀報告賞を頂き、大変光栄に存じます。本大会の企画・運営に携わられた関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。また、日頃から熱心に且つ厳格に指導してくださる青嶋誠先生、矢田和善先生、さらに発表練習で多くのコメントをしていただいた青嶋研究室の皆様にも、心から感謝申し上げます。本報告では、高次元相互共分散行列と高次元

平均ベクトルという2つの高次元特徴量の推定について、高次元小標本における新たなスパース推定法を提案致しました。これらの高次元特徴量の推定において、従来の不偏推定量は高次元で巨大なノイズを内包してしまうのですが、提案手法によってこのノイズを自動的に除去することができ、一致性を有するスパースな推定量を得ることが可能になります。今後の展望として、提案手法を高次元共分散行列全体の推定に拡張したいと考えております。今回の受賞を励みにして、研究をより発展させるべく日々精進して参ります。

川田 遼太郎（東京大学）

この度、統計関連学会連合大会にて優秀報告賞をいただき、大変嬉しく思います。まずは、大会の企画・運営や審査に携わられた関係者の皆様に深く感謝致します。そして、指導教員の駒木文保教授をはじめ、様々なアドバイスを頂いた先生や学生の方々に深く感謝申し上げます。本発表では、群対称性を持つモデルにおける Bayes 統計に関して、漸近的な手法比較を行いました。今回の受賞を糧にし、これからもより研究活動に邁進していこうと考えています。

3. 2025年度統計関連学会連合大会について

理事長 川崎 能典（統計数理研究所）
大会委員長 佐藤 忠彦（筑波大学）

2025年度統計関連学会連合大会の第一報は、2024年度連合大会直後の9月12日に発出されており、日本統計学会会報201号（10月31日発行）にも掲載しております。例年より異例に早い通知となった背景には、2025年度大会の会期が丁度大阪・関西万博の開催時期（2025.04.13-2025.10.13）と重なっているという事情があります。第一報に記載の通り、大阪市内のホテル等の混雑が予想さ

れますので、遠方からの出張でご参加の方々は、お早めの宿泊先を予約されることをお勧め致します。

なお、第二報は企画セッションの公募開始時期に合わせて3月上旬、第三報は4月下旬発行予定となっております。最新情報に関しては、統計関連学会連合のウェブサイトもご覧ください。
<http://www.jfssa.jp/meeting/#nowyear>

4. 第19回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

川崎 能典（日本統計学会理事長）
佐藤 忠彦・尾崎 幸謙・塚原 英敦・伴 正隆・秋元 良友・領家 美奈・牧本 直樹
（企画・行事委員会）
牧本 直樹・佐藤 忠彦・尾崎 幸謙・塚原 英敦・伴 正隆・秋元 良友・領家 美奈
（実行委員会）

第19回日本統計学会春季集会を筑波大学東京キャンパス文京校舎にて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催いたします。プログラムは招待講演による企画セッションを5つとお昼の時間帯にポスターセッションを設けます。セッショ

ンおよびプログラムは、随時、春季集会 Web サイトにてアナウンスいたします。また今回もポスターセッションの発表を広く募集しております。今回のポスター発表は現地での対面報告のみとし、いずれも1報告当たりのコアタイムを50分と

した入れ替え制とします。ポスター発表の応募に際しては、概要と審査用の予稿をご準備ください。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、授賞式を行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

記

日時：2025年3月8日（土）

10時00分～18時00分

会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎

共催：日本統計学会、統計質保証推進協会

学会員参加費：学会員は無料（ただし事前に参加登録が必要です。共催関係者以外の非会員は有料です。懇親会費は有料で事前に入金をお願いします）

非会員参加費：一般5000円、学生3000円（2月15日（土）までの登録）（2月16日（日）以降の登録）一般7000円、学生5000円。

懇親会：2025年3月8日（土）

18時～20時

懇親会費（会員・非会員共通）：

一般8000円、学生2000円（2月15日（土）までの登録）、一般9000円、学生4000円（2月

16日（日）以降の登録）。懇親会は、2月23日（日）以降、申し込みができません。参加を希望される方は、お早めに申し込みください。

懇親会会場：嘉ノ雅 茗溪館

○プログラム等の詳細情報は、春季集会 Web サイトをご覧ください。

○事前参加登録

本集会は、会場の都合上、事前の参加登録にご協力ください。オンライン聴講は事前の参加登録が必須です。春季集会 Web サイト内の参加申込ページより、2月22日（土）までにお申し込みください。

○ポスターセッションの申込み

春季集会 Web サイト内のポスターセッション申込ページより、2月22日（土）までに参加者が春季集会 Web サイトで参照可能な概要を添えてお申し込みください。ポスターセッションに関する詳細も同ページをご覧ください。表彰の審査対象は、日本統計学会会員（ポスター発表申し込みまでに入会の手続きをしている方）に限定しておりますので、ご留意ください。表彰の審査を希望される方は、審査員のみ参照可能な A4用紙 4 枚以内の審査用予稿をご準備ください。

5. 科学研究費：国際情報発信強化 (B) の採択について

植木 優夫（長崎大学）

日本統計学会では、科学研究費：国際情報発信強化 (B) 2019年度採択課題「日本統計学会欧文誌から国際的新雑誌への発展を計る取組」において、2019年度から2023年度の5年間に研究費の交付を受け、国際情報発信を強化する取組を行いました。その後、日本統計学会は、再び科学研究費：国際情報発信強化 (B) に新たな課題「Japanese Journal of Statistics and Data Science 誌のさらなる国際情報発信強化による国際的地位の確立」を申請し2024年度に採択されました。2024年度から2028年度の5年間に計1,930万円の研究費が交付

される予定です。

2019年度の採択課題において、日本統計学会は統計関連学会連合が2018年6月に創刊したJapanese Journal of Statistics and Data Science（以下 JJSD）の国際情報発信強化に努め、2023年6月にはClarivate社よりJJSDにImpact Factorが付与されるなど、国際情報発信強化の成果が表れてきました。2024年度に新たに採択された課題では、これまで築いた国際的地位をより強固なものとするべく、新たな国際情報発信強化の取組として「JJSD 論文のオープンアクセス化支援」、「統計関連学会連合大会で

の JJSD セッションの開催」を行うこととしました。

JJSD論文のオープンアクセス化支援は、これまで不定期に行っていたものを定期的な取組へと変えたものです。例えば、丸山祐造先生（神戸大学）による特集号「Stein Estimation and Statistical Shrinkage Methods」に掲載されたBradley Efron先生（米国）の論文「Machine learning and the James–Stein estimator」(Jpn J Stat Data Sci 7, 257–266 (2024), <https://doi.org/10.1007/s42081-023-00209-y>) は前研究費による支援でオープンアクセス化されました。このように、特集号には海外の著名な研究者の論文が多数掲載されています。JJSDに掲載された論文のオープンアクセス化を支援することで、さらなるJJSDの国際的知名度の向上を目指します。

統計関連学会連合大会での JJSD セッションの開催は、JJSD に出版歴のある国内外の研究者を招待して行うセッションです。開催はハイブリッド形式とし、科学研究費による支援は行いません。

2024年度の統計関連学会連合大会では、Li-Pang Chen 先生（台湾）、Il-Do Ha 先生（韓国）、武富奈菜美先生（広島大学）、Tso-Jun Yen 先生（台湾）の4名の研究者を招待し、JJSD セッションを開催しました。

これまでの取組の継続として、国外の著名な研究者を統計関連学会連合大会に招いてプレナリーセッションを開催します。また、JJSD のプラットフォームは引き続き Springer-Nature 社に委託して運営します。JJSD が創刊より掲げる“Fast Track”, “High Quality”, “Broad Audience”の3つの理念を堅持するために、国際的な web 投稿システムによる迅速な査読が不可欠です。今後も引き続き Springer-Nature 社のサポートを受けてプラットフォームを維持・管理いたします。

以上、2024年度に新たに採択された課題における取組を紹介しました。本取組を通して日本統計学会の、さらには日本における統計学・データサイエンスの発展を支えていくために、ご理解とご協力をお願いいたします。

6. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

川崎 能典（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第30回 日本統計学会賞

第5回 日本統計学会中村隆英賞

第21回 日本統計学会統計活動賞

第21回 日本統計学会統計教育賞

第19回 日本統計学会研究業績賞

第18回 日本統計学会出版賞

第39回 日本統計学会小川研究奨励賞

いずれも推薦期間は、2024年12月9日（月）から2025年3月21日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ (<https://www.jss.gr.jp/society/prize/>) からダウンロード可能です。推薦書は各賞ともすべて電子ファイル（パスワード保護、ファイル中のテキストを抽出できる形式）でお願いしま

す）を学会事務局宛に電子メールにてお送りください。メールの標題には、賞の名称を明記してください。（例：「日本統計学会賞推薦書類」）

不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

[照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL&FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

○各賞共通

[推薦方法]

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

[選考方法]

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

[発表]

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

○各賞の概要

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次の通りとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

- (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
- (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
- (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。
- (4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[推薦・選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JISD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

日本統計学会中村隆英賞

[趣旨]

経済統計の研究及び実務並びにこれに関連する分野の分析、理論、手法等の発展において顕著な業績のあった個人を顕彰し、我が国の経済統計の発達、普及、啓発に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞対象者は、経済統計の研究及び実務又はこれに関連する分野の分析、理論、手法等の発展に関し、多年にわたり顕著な功績のあった個人とし、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。授賞対象は、原則として年間2名以内とする。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、及び会長が推薦し理事会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状並びに副賞として賞金、記念品及び中村隆英氏の著書を授与する。

[参考]

この賞は、第18代日本統計学会会長を務められた故中村隆英氏のご遺族からの寄付を受け、同氏が活躍された分野及び関連する分野において多大な業績を挙げた研究者、実務家等を顕彰することを目的として2020年5月末に創設されたものであり、2025年度が第5回の授賞となります。日本統計学会中村隆英賞規程については、下記URLをご参照ください。

<https://www.jss.gr.jp/wp-content/uploads/nakamura20200530.pdf>

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動とし、毎年2件以内に授与する。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、毎年2

件以内に授与する。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野における優れた研究業績を顕彰する。

[対象範囲]

過去5年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去5年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書を審査対象とする。授賞の対象となる者は、原則、日本統計学会の正会員もしくは学生会員とする。授賞件数は毎年2件程度とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会小川研究奨励賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JSDS 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書(研究、教育あるいは啓蒙)を出版した著者、編者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する図書。
- (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

授賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

日本統計学会小川研究奨励賞

[趣旨]

若手の統計学研究を奨励する。

[対象範囲]

授賞対象者は、過去3年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去3年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書の主たる著者とし、日本統計学会の正会員もしくは学生会員であって、推薦書を受理した時点において35歳未満の者とする。授賞の対象となる者は若干名とし、過去もしくは当該年度における「日本統計学会研究業績賞」の授賞者は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び副賞として賞金を授与する。

7. 2025・2026年度代議員選挙結果

2023・2024年度選挙管理委員

川久保 友超 (千葉大学)

長谷川 翔平 (法政大学)

2024年12月3日(木)、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名(川久保友超、長谷川翔平)により、2025・2026年度代議員選挙の開票が行われました。その結果、定款第5条2により、次の33名が選出されました。

會田雅人、青嶋誠、赤谷俊彦、足立浩平、荒木由布子、岩佐哲也、岩崎学、大草孝介、大森裕浩、狩野裕、鎌倉稔成、鎌谷研吾、川崎能典、川野秀一、栗原考次、酒折文武、清水誠、瀬尾隆、

高部勲、竹内光悦、竹村彰通、田畑耕治、椿広計、富田誠、樋口知之、廣瀬慧、楨田直木、南美穂子、矢田和善、山下智志、山本義郎、美添泰人、渡辺美智子(以上33名、五十音順)

有権者1328名(正会員1316名及び名誉会員12名)中、投票者数114名、投票用紙延べ記名者数570、うち有効493、同無効77(記入票17、白票60)でした。

8. 2024年1～6月統計検定 CBT 方式試験の成績優秀者

照井 伸彦（日本統計学会会長）

川崎 能典（日本統計学会理事長）

2024年1月から6月に実施された統計検定CBT方式試験の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。漢字氏名を五十音順に並べています。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

準1級

最優秀成績賞（S）：阿久津有史，伊藤悠祐，永田脩，奥井洗希，荻野永和，加藤圭恭，加藤剛，鬼頭健太郎，久光倫央，橋口令，栗田風，原田祥季，高橋祐馬，黒岩宏紀，佐賀利浩，山下凌，市川涼翔，狩野湧誠，出尾晋一，小堺瑛，小杉大智，小川遼人，庄子慈人，上野学，森大輝，諏訪智也，杉崎慶太，石田春海，川崎慈英，草野一彦，村崎亘，知場啓志，中尾英晃，堤翔太，渡辺駿，都築孝一，土居亮太，藤原聖，内田圭，内田裕太，柏村遼介，白幡将吾，美里陸，富金原志志，武澤潤，兵頭一茂，平井俊輔，末吉亮太，矢野峻平，蕨川恭佑，櫻井允喜

優秀成績賞（A）：伊藤健太，井手厚，奥村栄一，奥脇彰也，下山良大，加藤亮海，岩崎拓斗，吉場稜晟，吉田友香子，吉田和馬，久野太吾，宮崎輝，九保直樹，御田村直樹，工藤浩章，高久由樹，高田青空，紺野貴大，佐藤佑哉，佐藤勇太，坂根太郎，山本俊一，市野弘人，柴田光希，出井正和，小鴨一輝，小野寺純也，松永純弥，松下謙太郎，上里真史，石山将成，赤金龍之輔，村上凌清，多田健斗，竹下靖人，竹内和也，中山寛生，長田拓朗，田中翔，渡部祐真，渡邊輔祐太，徳田創紀，内之倉健太，二宮宏史，日高大輔，白邦裕千，飯澤睦也，豊田真之，木村優作，野坂優斗，矢野雅和，有田昂平，由澤敦史，劉亜東，鈴木遼太郎，鷺見公崇，兒玉賢哉，廣田敦士，高井優介

2級

最優秀成績賞（S）：井門駿介，額田慶一郎，吉藤徹，宮本翔太，近藤寛，甲斐邦彦，佐藤圭祐，佐藤弘毅，笹木龍之介，三ッ森大輔，山野上勇人，寺田裕之，小杉大智，小林亮太，松本滉平，上田翔太，船木翔，大森豊，大澤裕一，田中理枝子，渡邊友佳，内山聖一，芳賀今道，北森晴大，鈴木悠生

優秀成績賞（A）：伊藤辰都，井上知泰，遠藤いずみ，横尾拓海，可児淳，丸山大介，岸野真之，岩崎佑，吉岡凜太郎，吉川綜一郎，宮堺陽一，宮崎温，宮崎祐也，居郷孝泰，熊谷陸，古田到真，後藤桂佑，江口碧，江本篤司，鴻巣正樹，佐藤旺介，佐藤慶樹，佐藤光晴，佐伯健斗，阪口哲平，札場大翔，三島隆，三木七海，三木優，山田ちひろ，山本蒔志，山本晟雅，山崎有貴，志田龍太郎，柴田真衣，酒井舜五，出来佑都，小杉まどか，小池由美香，小島康司，小林大介，松本大輝，上山陸人，場崎茉優，杉浦尊祥，杉山悟，菅原伸一，菅野翔太，瀬戸啓一朗，清水遼，西村康一，楚欣雨，村上綸，太田清陽，大井芳道，大橋一翔，大森一輝，大塚優里奈，谷岡淑恵，谷川原祐一，池田晴成，中岡育也，中村悠人，仲井佑友輔，朝原健翔，長谷川将大，長尾英和，堤田賢人，田中瑛美，田鍋帆稀，渡辺慶二郎，唐戸敏彦，内山成宏，内田順也，南屋遼，萩野谷洗，柏格非，白石尚輝，美和侑磨，百瀬賢吾，平田直輝，片野蓮香，明知隼二，木下翔，木本雄太，野村壮哉，野中景介，藁科慶伍，單子豪，柳圭祐，濱屋悟

3級

最優秀成績賞（S）：伊藤奨，伊藤優希，井上貴文，永井裕人，岡村秀行，下村徹徳，加藤雅哉，

加藤雪月，関口雄太，関大輔，吉村啓，吉田健祐，吉田亮祐，吉田亘佑，吉澤寿朗，久保田菜摘，宮川香苗，芹澤雄理，古橋直人，後藤桂佑，江口博之，坂上明日香，山下薫平，山田陸登，児玉修一，寺田裕之，守良真，宗裕之，小西慧，小沢元，松井亮平，松田祐紫，松尾要佑，森田剛熙，西田桃子，石崎靖道，前川雄亮，村松快真，太田光，太田美里，大畑和士，大平智也，竹本純一，朝倉宏，長谷川貴大，陳昱充，津山勲貴，鶴島啓展，田中知樹，渡辺勇人，土手内奨，萩森正尊，飯塚柊斗，富所淳，武藤龍之介，峰地楓子，有田学，鈴木伸介，鈴木智喜，續航平，關菜央美

優秀成績賞 (A) : Ogawa Koji, 阿部哲士, 安田健, 伊東駿佑, 伊藤安生, 伊藤博昭, 井上慶人, 稲葉寿久, 永井昌平, 遠藤孝元, 奥蘭純菜, 横井裕恵, 下原田功, 下地健太, 河田鷹介, 河野結, 河野龍悟, 我謝和紀, 戒能芳弘, 柿木太志, 丸山直幸, 吉田朱希, 吉田裕紀, 宮下一博, 宮城智一, 宮澤圭悟, 牛田陸斗, 魚地美優羽, 金井博史, 熊懷歩美, 古閑亮祐, 戸田丈士, 胡若昉, 五堂結衣, 後藤泰彰, 口野滉平, 江口慎太郎, 荒牧孝洋, 高橋一真, 高橋和恵, 黒島亮, 今井翔悟, 根岸哲也, 佐久間光, 佐藤天晟, 佐南谷瑞, 坂本大亮, 三好勘太, 三好風菜, 山崎一誠, 山田沙織, 志田龍太郎, 氏家崇久, 糸山雅史, 寺尾直也, 篠原佑作, 出井克則, 小川晃輝, 小川晃弘, 小林雅行, 小林充輝, 松谷琴音, 上田稔, 上翔平, 織田和樹, 新倉美帆, 森健城, 森山周太, 森川修渡, 森田未来, 森本健太郎, 水谷佳保里, 清家隆弘, 西村裕介, 西田健二, 西田志朗, 西本遼右, 石井正幸, 石崎優花, 石川慶季, 石田直之, 仙波龍生, 川越出, 川合萌, 川畑直貴, 泉田敏宏, 前田陽春, 前野成実, 相川建一郎, 醍醐智典, 知久翼, 地曳崇, 中家茂俊, 中原瑳衣子, 中西雄大, 中村虎太郎, 鳥居英兒, 辻茉莉花, 釘宮由紀久, 渡部智文, 渡辺俊一, 渡邊茉優, 土屋智佑, 島田剛徳, 嶋川誠史, 藤森雄士, 藤本ほのか, 堂本和花, 日谷春喜, 能見功一, 白川愛理, 伴野眞優, 飯田和浩, 飯野舜也, 表和弘, 福山英雄, 平林可意, 北野蒼作, 本宮智美, 名和田俊

弘, 落石悟, 林正洋, 鈴木康平, 鈴木泉, 六嶋真希子, 六嶋正知, 和田匠海, 崔勝源, 廣川俊

4級

最優秀成績賞 (S) : 阿部隼也, 萩原由太郎, 海老根淳, 岩下哲士, 吉川仁, 口分田京子, 高橋慎也, 佐藤弘毅, 坂井太一, 山下薫平, 山口輝陽人, 山本修平, 志田龍太郎, 篠崎咲那, 秋庭夢加, 小林諭, 石崎靖道, 前田将和, 竹測和希, 渡邊諒, 東田大亮, 萩原健悟, 尾上正紀, 平澤凌一, 本田学, 木下智貴, 櫻井貴裕, 櫻田直也, 高木優一

優秀成績賞 (A) : 安井敏, 安斎高弘, 一法師稔, 横田理帆, 丸口将弘, 亀沢実音, 吉永哲雄, 吉見紗代子, 久保心櫻, 宮崎幸輝, 玉井喜芳, 原田奈美, 古屋勝悟, 荒牧孝洋, 荒木充公, 高橋宏典, 今藤優一, 佐久間直也, 坂井勇斗, 山崎優佳里, 漆原寛人, 松島礼枝, 松本弘達, 上村卓, 須藤剛史, 水谷拓海, 西田健二, 西之園恵子, 青本眞裕子, 石川奨平, 石川拓弥, 石川和裕, 川島爽楽, 浅井利恵, 倉持大地, 糟屋綾香, 大宮基裕, 大塚雅也, 辰巳優介, 樽谷寛之, 中村純一, 土屋翔, 藤永恵吾, 藤岡滉平, 藤原美子, 那須隆, 萩谷和彦, 白川愛理, 飯沼詩織, 福田祥久, 福島康雄, 平賀小百合, 平畑理映, 米田大史, 有村航太郎, 林恵太, 鈴木康之, 鈴木勇貴, 廣瀬史也, 濱田卓, 齋田佳歩, 高橋健斗

統計調査士

最優秀成績賞 (S) : 山本啓喜, 志茂悠介, 池田佳生

優秀成績賞 (A) : 安藤勘司, 伊藤千恵子, 甲斐邦彦, 佐々木駿, 佐藤大祐, 真野大雅, 世古寛幸, 西脇愛美, 青柳孝孝, 浅田徹, 村上浩之, 大脇花奈, 竹田有希, 島村大河, 島本高志, 福島康雄, 平山潤, 平沢春佳, 祐實諭, 鈴木陽太

専門統計調査士

最優秀成績賞 (S) : 甲斐邦彦, 高久由樹, 山本啓喜, 松下剛士, 石原一志, 村上陽一, 李瀛

優秀成績賞（A）：安藤勘司，佐宗駿，三浦夏乃，森口佳奈，世古寛幸，石黒丈嗣，浅田泰佑，多田昌史，大脇花奈，竹田有希，堤大耀，土居徹也，内藤大貴，飯沼章太，門田涼，鈴木信弘，鈴木創

データサイエンス基礎

最優秀成績賞（S）：稲松清澄，加藤雅浩，館野将輝，吉村達矢，橋向武士，橋本悠太郎，後藤新一，高木ケイスケ，高野裕樹，寺田由紀洋，川向誠一，川崎祐一朗，染谷明，村上謙太，太田有紀，大野直樹，大林俊哉，谷津田博伎，辻高志，藤原伸哉，楠瀬俊祐，日高悠太，櫻田伸之，游韋倫

優秀成績賞（A）：阿部浩士，羽田徳成，奥輝

之，河津忠義，吉形和晃，吉田優志，高田秀樹，佐藤裕宣，笹川竜治，小松華子，小川春美，松田大樹，新國肇，杉崎亮，杉山裕晃，大津寛万，中村康，武藤崇，門田敬之

データサイエンス発展

最優秀成績賞（S）：森田康介，西村保輝，竹内津紘，田上慶幸，田中雄

優秀成績賞（A）：奥祐輔，荒野俊平，大堀拓輝，田村裕和，能勢和彦，齋藤克知

データサイエンスエキスパート

優秀成績賞（A）：渋谷優貴，町田稜平，末成信宏

9. 理事会・委員会報告（2024年10月12日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2024年10月12日（土曜日）

午後4時00分～午後4時27分

場所：東京理科大学経営学部 5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID: 892 9638 8166）

理事の総数 14名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：照井伸彦会長，川崎能典理事長，伴正隆（庶務），坂田綾香（庶務），白石博（会計），増田弘毅（JISD），原尚幸（会誌編集和文），小西葉子（広報），佐藤忠彦（大会／企画・行事），鎌谷研吾（国際），江村剛志（国際），植木優夫（渉外），瀬尾隆（渉外），

（以上13名，括弧内は役割分担）

監事：大森裕浩，山下智志

第1議案 常設委員会における委員について

川崎理事長より，資料に基づき，大会委員会および企画・行事委員会における委員について説明がなされ，審議の結果，承認を得た。

第2議案 学会賞各賞の候補者推薦について

川崎理事長より，資料に基づき候補者推薦の日程および方法について説明がなされ，審議の結果，承認を得た。

第3議案 社員総会招集について

照井会長より説明がなされ，審議の結果，下記の内容で承認を得た。

1. 日時 2025年3月7日（金）午後6時00分から
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 会議の目的事項

（1）社員総会における通常の審議

なお，春季集会は3月8日（土）に開催予定。

第4議案 被選代議員会招集について

照井会長より説明がなされ，審議の結果，下記内容で承認が得られた。

1. 日時 2025年3月7日（金）の社員総会終了後 午後7時30分頃から
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 会議の目的事項

（1）会長候補者の選出

（2）被選理事長の選出

第5議案 中村隆英賞基金の運用について

川崎理事長より，運用について理事会内でワーキング

グループを作成して検討する旨の説明があり、審議の結果、承認が得られた。

第6議案 会員の入退会

川崎理事長より、資料に基づき、入退会希望者が紹介され、審議の結果、承認が得られた。

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2024年10月12日（土曜日）

午後4時28分～午後6時39分

場所：東京理科大学経営学部 5階会議室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティング ID: 892 9638 8166）

出席：理事13名、監事2名、計15名

照井伸彦会長、川崎能典理事長、伴正隆（庶務）、坂田綾香（庶務）、白石博（会計）、増田弘毅（JJSD）、原尚幸（会誌編集和文）、小西葉子（広報）、佐藤忠彦（大会／企画・行事）、鎌谷研吾（国際）、江村剛志（国際）、植木優夫（渉外）、瀬尾隆（渉外）、大森裕浩（監事）、山下智志（監事）

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

増田委員長より、JJSDの編集状況について報告がなされた。

2. 和文誌編集委員会

原委員長より、和文誌の編集状況について報告がなされた。

3. 大会委員会

佐藤委員長から、2025年度統計関連学会連合大会の準備状況について報告がなされた。

4. 企画・行事委員会

佐藤委員長から、第19回統計学会春季集会について報告がなされた。

5. 庶務委員会

伴委員長から、学術著作権協会への管理委託著作物のAI利用の可否についてと、3件の後援承諾についての報告がなされた。

・データ利活用シンポジウム in 南紀白浜 AI時代のデータサイエンス

主催：総務省、独立行政法人統計センター

・統計・データサイエンス力向上のための授業に係る

優秀事例表彰

主催：（公財）統計情報研究開発センター

・人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2024）

主催：情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会（IPSJ SIG-CH）

6. 広報委員会

小西委員長から会報201号についてと、学会サーバーの一時的不調についての報告がなされた。

7. 国際関係委員会

鎌谷委員長から、春季集会の基調講演についてと、来年のYRSに関する報告がなされた。

8. 渉外委員会

植木委員長より、科研費の実地検査についての報告がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より、7/29,9/26に開催された質保証推進協会事業委員会についての報告がなされた。

10. 統計教育委員会

竹内委員長が欠席のため、伴理事より代理で報告がなされた。

11. その他

川崎理事長から、以下の項目に関する説明がなされた。

・「未来の学術振興構想」に関するアンケート調査について

・統計質保証推進協会からの協力について

・統計関連学会連合の法人化について

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

2. 和文誌編集委員会

3. 大会委員会

4. 企画・行事委員会

5. 庶務委員会

6. 広報委員会

7. 国際関係委員会

江村委員よりEcoSta 2025でのJSS Keynote Talk, JJSDセッションの開催が提案され、継続審議とした。

8. 渉外委員会

9. 質保証委員会

10. 統計教育委員会

11. その他

今後の予定

2024年11月22日(金)午後6時00分もしくは2024年11月26日(火)午後6時00分

春季集会準備会議(企画・行事委員含めて調整, オンライン)

2025年2月4日(火)午後6時00分

理事会(オンライン)

2025年3月7日(金)午後6時00分

社員総会(オンライン)

2025年3月7日(金)午後7時30分

被選代議員会(オンライン)

2025年3月8日(土)

日本統計学会春季集会(ハイブリッド)

2025年5月10日(土)午後1時00分

理事会(ハイブリッド)

10. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月の順に掲載いたします。

修士論文

●(1)光田大輝 (2)修士(理学) (3)早稲田大学 (4)ID-SEMを用いた関数データ解析による死亡率予測 (5)清水泰隆 (6)2024年2月

●(1)高岡伸句 (2)修士(理学) (3)早稲田大学 (4)Functional Estimation via Exact Likelihood Form for Continuously Observed Gaussian Process (5)清水泰隆 (6)2024年2月

●(1)西脇優斗 (2)修士(理学) (3)早稲田大学 (4)Parametric Estimation of Mean Function via Exact Likelihood Form for Gaussian Process (5)清水泰隆 (6)2024年2月

●(1)入江遼 (2)修士(理学) (3)早稲田大学 (4)負のジャンプをもつ Lévy 過程の離散観測による q -スケール関数の推定量の構成とその漸近的性質について (5)清水泰隆 (6)2024年2月

●(1)飛田綾也 (2)修士(理学) (3)早稲田大学 (4)Random forest kernel density estimation (5)清水泰隆 (6)2024年2月

●(1)小杉拓生 (2)修士(理学) (3)千葉大学 (4)Semiparametric regression with localized Bregman divergence (5)内藤貫太 (6)2024年3月

●(1)松本美幸 (2)修士(理学) (3)千葉大学 (4)Comparative studies on LASSO-type estimators in nonparametric regression (5)内藤貫太 (6)2024年3月

●(1)蔣思澄 (2)修士(理学) (3)千葉大学 (4)一般化 Kendall's tau 行列による主成分分析 (5)内藤貫太 (6)2024年3月

11. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の記事を掲載します。

●清水泰隆『統計学への漸近論, その先は. -現代の統計リテラシーから確率過程の統計学へ-』内田老鶴圃, 2023年12月, 3,800円

●佐藤健一, 杉本知之, 寺口俊介, 江崎剛史『実

況! Rで学ぶ医療・製薬系データサイエンスセミナー』

学術図書出版社, 2023年4月, 3,080円

内容紹介: 段階的なデータ解析の流れや解析手法間の関係をR言語を使って紹介しています。

12. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2024年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(<https://www.jss.gr.jp/fee/>).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F
公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当
Tel & Fax : 03-3234-7738
E-mail : shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表

し、御冥福をお祈り申し上げます。

外山 信夫 会員
萩原 稔 会員
前川 功一 名誉会員

入会承認

畔川和弘, Odlum Henry, 肖煜秦, 武富奈菜美, 根間裕史, 野口智明, 宮原英之, 本武陽一, 吉本拓矢, 一般財団法人統計質保証推進協会 (敬称略)

退会承認

萩野大助, 金明哲, 小杉拓生, 小森哲志, 田中豊, 増田智巳, 御園謙吉 (敬称略)

現在の会員数 (2024年12月3日)

名誉会員	13名
正会員	1,352名
準会員	6名
学生会員	73名
総計	1,444名
賛助会員	18法人
団体会員	7団体

13. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

• 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

• 博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題

名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

• 求人案内 (教員公募など)

• 研究集会案内

• 新刊紹介

著者名、書名、出版社、税込価格、出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてくださ

い.

- 会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）
できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒100-8901

東京都千代田区霞が関 1 丁目 3 番 1 号

経済産業省別館11階

独立行政法人経済産業研究所 小西 葉子 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会連合ホームページ URL：
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：
shom@jss.gr.jp